

2010

JULY 7 vol.28

東京成徳広報



大学・大学院、短期大学初の合同入学式



学校法人 東京成徳学園

C O N T E N T S

P 3	巻頭言「多様性の大切さについて」 副理事長 木内 秀樹	
P 4	学園の動き 役員・評議員の改選 平成 21 年度事業の概要 平成 22 年度事業計画	
P 8	教育研究活動 「TSU 就活力パワーアッププログラム」	
P 10	ひと「活躍する卒業生」	大学人文学部卒 及川肇さん 大学子ども学部卒 柿沼由佳さん
P 11	社会交流 第二幼稚園近隣小学校との連携 国際交流 大学子ども学部慶熙大学校（韓国）との交流について	
P 12	TOPICS 入学式 大学院 八千代キャンパス 十条台キャンパス 短期大学 中高一貫部 高等部 深谷高校 幼稚園 第二幼稚園	
P 19	進路状況 進学・就職	
P 21	クラブ活動 など	
P 23	学園人事異動	
P 24	学校説明会・お問い合わせ先	



TOKYO SEITOKU

学園のシンボルマーク
「理想」と「若さ」を表す
ブルーの五本の柱は、五つの教育目標を
「活力」と「勇気」を表した
イエローの三本の柱は、学生・生徒と
教職員、同窓生を象徴しています。
そして、八つの柱が一体となり、
東京成徳と学園に集う人々の
ヒューマニティーを
作り上げる姿を表現しています。

表紙 大学・大学院、短期大学入学式

4月3日に举行された初めての高等教育部門合同の入学式。
大学・大学院、短期大学を合わせ総勢 716 名の入学生を迎える。



多様性の大切さについて

副理事長 木内 秀樹

生物の多様性

2010年は、国際連合が世界の生物多様性の重要性認知を高め、すべての政府・機関・個人に対して地球の命を守るための取り組みを促すため定めた「国際生物多様性年」となっている。また、5月22日は「国際生物多様性の日」となっているが、これは1992年の地球サミットで、条約が採択された日を記念して定められたものである。なお、本年10月には、名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議が開かれることになっている。

生物多様性とは、生物が多種類あるということだけでなく、「様々な自然にいる生き物の複雑なかかわりあい」のことであり、「生態系の多様性」、「種の多様性」、「遺伝子の多様性」などがあげられる。生物の多様性は、人間の暮らしにも大きく関係しており、私達は、食べ物、着る物、住まいの材料など様々な形で自然の恩恵を受けているが、人類の

繁殖地への被害など、防げるはずの人為的な原因による環境破壊は残念である。

教育の多様性

話は変わるが、多様性が重要であることは教育の分野でも同様である。教育の多様性には様々な視点があるが、学校の設置者についても多様性（私学教育）の必要性が明確にされている。これは第二次世界大戦下のドイツにおける教育への国家統制に対する反省からきているもので、民主主義と平和の実現の観点からも大切なものである。1966年の国際人権規約（社会権規約）では、教育の目的、親の私立学校選択、私立学校設立の自由などの3つの点で、教育の国家的独占・支配について歯止めをかけている。公立学校への通学が保障されているにもかかわらず私立学校の存在が認められるのは、「学校選択の自由」が認められているからである。そして、憲法26条（教育を受ける権利）、教育基本法第3条（教育の機会均等）の趣旨を実現するためには、子どもたちがその意思と能力とに応じて、自らにとって最も相応しい教育を受けることが実質的に保障されなければならないと考えられて

いる。教育の内容に関する私学の取り組みの多様性は日本の教育をリードするものである。そして、教育費の負担に関し、国際人権条約委員会では日本に対し、すべての者の教育への権利保障として「無償制の拡大」などを指摘しており、その点からも今回実施された公立高校の無償化だけでなく、北欧諸国で実施されているような私立学校の実質無償化や日本国憲法で明記されている義務教育（小・中学校）の完全無償化がまず実現されるべきだと考える。もちろん私立学校の授業料をすべて無償化しろということではなく、公立学校の一人当たり教育費と同程度の額を公費で負担軽減すべきである。因みに平成20年度の実績によれば、生徒一人当たり経常経費は公立高校で約104万円であり私立の平均とほぼ同額となっている。決して「グリーン車論」でいわれるような贅沢な教育を受けるのだから当然私学の保護者は高負担をすべきだという実態ではないことを理解していただきたい。教育費の負担の公平化によって学校選択の自由が制限されることなく、子どもたちが受けた教育を受けられるようになることを強く願っている。

学園の動き

役員・評議員の改選・平成21年度事業の概要・平成22年度事業計画

役員・評議員の改選

平成22年5月29日に開催された学園理事会・評議員会において、役員・評議員の改選が行われ、左表の通り決定しました。

理事・監事・評議員

役職	氏名	現職
理事長・評議員	木内秀俊	大学学長、短期大学学長
副理事長・評議員	木内秀樹	中学・高等学校長、幼稚園長
理事・評議員	大谷幸男	深谷高等学校長
理事・評議員	國分康孝	大学副学長
理事・評議員	黒田定男	大学八千代事務局長
理事・評議員	○竹内利行	群馬大学副学長
理事・評議員	中里明彦	成蹊大学名誉教授
理事・評議員	○青柳晴久	赤城印刷株式会社代表取締役
監事	大澤健	前深谷高等学校長
監事	黒崎康夫	三協立山アルミ株式会社常勤監査役
評議員	深谷昌志	大学子ども学部長
評議員	中田カヨ子	短期大学幼児教育科長
評議員	加々美健一	第二幼稚園長
評議員	渡部賢	大学十条台事務局長、短期大学事務局長
評議員	石山賢	法人事務局長
評議員	三上令子	中学・高等学校同窓会長
評議員	○遠藤洋子	短期大学同窓会長
評議員	○岡田康司	大学経営学部長
評議員	海保博之	大学応用心理学部長
評議員	○新井邦二郎	大学院心理学研究科長
評議員	○津島泰雄	歯科医師
評議員	菅澤喜八郎	元常務理事、前高等学校長

○・・・新任者



〈就任〉

理事 竹内利行

東京大学医学部卒業。

国内の医療施設勤務後、9年間にわたる米国での勤務・研究を経て群馬大学教授に就任。現在、同大学副学長をされています。



理事 青柳晴久

成蹊大学法学部卒業。

現在、赤城印刷株式会社代表取締役、赤城商事株式会社代表取締役、社団法人四谷法人会会長をされています。

〈退任〉

理事 佐々木富也

平成7年より平成10年まで評議員、平成10年より平成13年まで監事、平成13年より理事・評議員となる。

また、後援会会長として学園の発展に多大の御尽力をいただいています。

理事 市村操一

平成13年筑波大学教授を退官後、臨床心理学教授として着任。平成16年学科長をはじめに、応用心理学部長、大学院心理学研究科長を歴任、平成20年より理事・評議員となる。

現在、大学図書館ならびに、健康・スポーツ心理学教授をされています。

監事 下山武士

昭和61年より平成10年まで監事、平成10年より平成19年まで理事・評議員、平成19年より監事となる。

現在、財団法人学校福祉協会会長。24年の長きにわたり学園の役員、後援会のリーダーとして、学園の発展に御貢献いただいています。



平成21年度事業の概要

学園は創立84年となる平成21年度を終了し、1,844名の卒業生を送り出しました。創立以来の卒業生総数は11万2,533名となり、11万名を超えました。また、平成22年4月には合計1,980名の入学者・入園者を迎え、平成22年度の学生・生徒・園児数（平成22年5月1日現在）は、5,534名となりました。

法人では、平成21年9月に「平成21～25年度 中期事業計画」を策定して、平成21～25年度の事業方針を明確にしました。理事会・評議員会での承認を受けて、要約を学園のホームページに公開し、『東京成徳広報』2010年1月号にも要約を掲載しました。また、予算の執行・管理などの体制整備を進めるとともに、北区から旧北区立清至中学校跡地を借受けて体育施設として利用するなどの施設整備を進めました。

高等教育部門では、経営学部（入学生定員100名）及び応用心理学部健康・スポーツ心理学科（入学生定員50名）を開設しました。経営学部開設に伴い、平成21年度から募集を停止していた短期大学ビジネス心理科は、平成21年度末に在学生在が全員卒業したため廃止しました。人文学部観光文化学科（入学生定員70名）の設置届出が文部科学省に受理されたので、平成22年度に同学科を開設することとしました。

中等教育部門では、平成22年度の募集に際して公立高校授業料無償化の影響も懸念されましたが、教育内容の充実とそれに伴う進学実績の向上により、十分な募集成果をあげることができました。

幼児教育部門でも、教職員の質向上や保育環境の整備に努めたことなどにより、平成22年度募集は順調な結果となりました。

なお、詳しくは東京成徳学園ホームページに掲載していますので、御覧下さい。

<http://www.tokyoseitoku.ac.jp/report/index.html>



十条台キャンパスにて

学校法人東京成徳学園 平成21年度決算

資金収支計算書

(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで) (単位:千円)

収入の部		金額
科目	金額	
学生生徒等納付金収入	3,870,046	
手数料収入	125,506	
寄付金収入	45,239	
補助金収入	1,729,637	
資産運用収入	18,315	
資産売却収入	429	
事業収入	9,083	
雑収入	86,244	
借入金等収入	1,200	
前受金収入	1,016,272	
その他の収入	155,763	
資金収入調整勘定	△ 1,161,461	
前年度繰越支払資金	2,572,946	
収入の部合計	8,469,219	
支出の部		金額
科目	金額	
人件費支出	3,744,618	
教育研究経費支出	998,780	
管理経費支出	315,335	
借入金等利息支出	40,665	
借入金等返済支出	278,970	
施設関係支出	214,256	
設備関係支出	98,213	
資産運用支出	234,540	
その他の支出	163,396	
資金支出調整勘定	△ 106,555	
次年度繰越支払資金	2,487,001	
支出の部合計	8,469,219	

消費収支計算書

(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで) (単位:千円)

消費収入の部		金額
科目	金額	
学生生徒等納付金	3,870,046	
手数料	125,506	
寄付金	50,800	
補助金	1,729,637	
資産運用収入	18,315	
資産売却差額	328	
事業収入	9,083	
雑収入	86,244	
帰属収入合計	5,889,959	
基本金組入額合計	△ 364,499	
消費収入の部合計	5,525,460	
消費支出の部		金額
科目	金額	
人件費	3,744,734	
教育研究経費	1,684,023	
管理経費	391,759	
借入金等利息	40,665	
徴収不能引当金繰入額	600	
徴収不能額	13,680	
消費支出の部合計	5,875,461	
当年度消費支出超過額	350,001	
前年度繰越消費支出超過額	6,964,435	
翌年度繰越消費支出超過額	7,314,436	

貸借対照表

(平成22年3月31日現在) (単位:千円)

資産の部		金額
科目	金額	
固定資産	44,459,404	
有形固定資産	40,493,441	
その他の固定資産	3,965,963	
流動資産	2,923,595	
資産の部合計	47,382,999	
負債の部		金額
科目	金額	
固定負債	338,349	
流動負債	1,692,394	
負債の部合計	2,030,743	
基本金の部		金額
科目	金額	
基本金	52,666,692	
消費収支差額の部		金額
科目	金額	
翌年度繰越消費支出超過額	7,314,436	
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	47,382,999	

平成22年度事業計画

教育界の現状と事業計画の策定

新聞やテレビなどで報道されているように、少子化の進行や経済の低迷などで、教育界は厳しい環境に置かれています。「平成21年度事業の概況」で述べたように、この厳しい環境を乗り切るため、学園は平成21年9月に「平成21～25年度 中期事業計画」を策定し、平成21～25年度における各部門の事業方針を明確にしました。

さらに現状では、厳しい雇用情勢

が続ぎ、また、昨年9月における新政権の発足とともに教育政策の見直しが進んでいます。その結果、教育界では、①高等教育におけるキャリア教育とキャリア支援へのニーズの高まり、②中等教育における公立高校の授業料無償化、③幼児教育における「幼保一元化」などの将来における制度改革についての論議の高まりなどの変化が生じています。

「平成22年度事業計画」では、このような最近の学園をとりまく環境変化を見据えながら、「平成21～25年度 中期事業計画」に基づいて、また平成21年度の事業成果を踏まえ、各部門において平成22年度事

業計画を策定しました。

高等教育部門の事業計画

高等教育部門では、平成20年度以降、2学部・2学科を増設しました。新学部としては、平成20年度に応用心理学部、平成21年度に経営学部を設置しました。また、新学科としては、平成21年度には応用心理学部に健康・スポーツ心理学科、平成22年度には人文学部に観光文化学科を設置しました。その結果、大学の学部・学科は「4学部・8学科・2キャンパス」となりました。

高等教育部門全体での平成22年度志願者・入学者は、学部・学科新設の効果もあり、前年度に比べて増加しました。平成23年度募集については、募集対策及び広報諸施策を更に強化して、一層の志願者・入学者の拡大を目指します。また、高等教育部門全体での連携強化や、諸規程の整備により、拡大した高等教育部門全体の運営体制の整備・強化を実施します。

「平成22年度事業計画」では、このよう最近の学園をとりまく環境変化を見据えながら、「平成21～25年度 中期事業計画」に基づいて、また平成21年度の事業成果を踏まえ、各部門において平成22年度事

業計画を策定しました。た、八千代キャンパスにおける「情報環境インフラの改善及び学生のニーズに応えるキャンパス作り」、子ども学部における「研究課題の充実」及び「入学前指導の充実」、短期大学における「カリキュラム及び履修方法の点検・改善」及び「平成22年度入学者からのGPA制度による成績評価」などの実施も計画されています。

将来の教育内容の向上のために「自己点検評価」を実施して、一層の教育内容の向上を目指します。子ども学部では、「子ども学部将来計画」についての検討が進められます。

高等教育ではキャリア教育とキャリア支援の充実が喫緊の課題となつていますが、八千代キャンパスで開発した「TSU就活力パワーアッププログラム」が平成21年度文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」就職支援推進プログラムに選定されるなど、社会的評価を受ける水準での対応を進めています。平成22年度では、「TSU就活力パワーアッププログラム」を実施するなど、短期大学を含めて学部・学科の実情に応じた取り組みを実施します。

「平成22年度事業計画」では、このよう最近の学園をとりまく環境変化を見据えながら、「平成21～25年度 中期事業計画」に基づいて、また平成21年度の事業成果を踏まえ、各部門において平成22年度事

外部資金を活用した研究・事業は、八千代キャンパスの「TSU就活力パワーアッププログラム」や、子ども学部の「6大学連携教育支援人材育成事業」の展開などのように社会的評価を得られるプロジェクトを多く立ち上げるよう、積極的に推進します。

公開講座は、八千代キャンパスでは八千代市との提携による公開講座（無料）、及び「TSUオープンカレッジ」を実施し、また、子ども学部では北区教育委員会の後援による公開講座を実施します。

研修会・講習会は、短期大学幼児教育科では「保育研修会」、「保育研究発表会」、「音楽研究発表会」を実施し、また、人文・応用心理・子ども学部及び短期大学幼児教育科では「教員免許状更新講習」を実施します。

中等教育部門の事業計画

中等教育部門では、密度の高い進学指導及びクラス活動を含めた人間としての成長を目指す教育を充実して、教育内容の向上を図ります。また、必要となる設備や教育環境の整備を進めます。募集・広報活動や地域社会との連携を更に推進します。各学校の具体的な計画は、

教育研究活動

「TSU就活力パワーアッププログラム」が優れた取組みに選定

大学八千代キャンパスで実施している「TSU就活力パワーアッププログラム」が、文部科学省の平成21年度大学教育・学生支援推進事業の優れた就職支援推進プログラムとして、選定されました。この取組みの概要をご紹介します。



文部科学省の公募

文部科学省では、平成21年度における大学卒の就職内定状況が悪化している社会経済情勢を受けて、大学における就職支援態勢の強化を図る観点から、達成目標を明確にした効果が見込まれる優れた取組みを選定して財政支援を行うとともに、広く社会にこの情報提供することにより、学生の就職率の向上とキャリア形成の促進を図ることを

目的として、「就職支援推進プログラム」の公募を行いました。

大学八千代キャンパスの取組み

人文学部と応用心理学部を擁する八千代キャンパスでは、従来から事務局就職課と教授会の専門機関としての就職委員会を設置して、学生の就職支援態勢を敷いてきました。具体的な支援取組みとしては、3年生を中心に、就活準備のための就職講座、資格取得のためのキャリアアップ講座、社会人基礎力を培うキャリア教育と専門教育、就活実践力養成のための就職セミナーなどです。

就活支援態勢の強化

八千代キャンパスでは、低迷する学生の就職内定状況に危機感を持ち、就職活動ほかの学生支援体制を強化することを目的として、学生課と就職課を統合して学生支援課を設置し、更に学科・共通領域部・学生支援課の三者が一体となって、就職支援活動を体系的に行う支援態勢を構築しました。

この就職支援の取組みを、「TSU就活力パワーアッププログラム」と（以下、「TSU就活プログラム」と

いう。）と名づけて、平成21年度文部科学省「就職支援推進プログラム」に応募した結果、優れた取組みとして選定され、財政支援を受けることが決定しました。

TSU就活プログラムの目的

TSU就活プログラムでは、「就活を勝ち抜き、人生を主体的に生きる確かな力を育成する」ことを目的としています。



TSU就活プログラムの主な特徴

- 共通領域部が主宰する「キャリアデザイン」などのキャリア教育と連動して実施されます。
- 学科授業においても、プレゼンテーションやディスカッションを重視した授業が展開されます。

○ 学生支援課キャリア担当では、専門講師などによる就活に必要な技術支援が行われます。

○ 就活に必要な企業情報などがWEBなどを通じて幅広く提供されます。

○ キャリア形成に欠かせない資格取得のための「キャリアアップ講座」が開設されます。

○ 企業の採用担当者を招いた実践「企業セミナー」が開催されます。

○ 学生支援課のキャリアスタッフは、全員が専門資格を持ち、学生の相談に応じます。

今後の展開

八千代キャンパスの各学部・学科、共通領域部、学生支援課キャリア担当では、密接な連携をとりながら、TSU就活プログラムに即して学生の就職活動を支援し、

就職者と進学者の在籍者に対する比率が前年比を着実に上回ることを目標に、学生支援を進めてまいります。



玉川教授とキャリア担当スタッフ

ひと

『活躍する卒業生』

大学人文学部

英語・英米文化学科（平成14年3月卒業）

及川 肇さん

東光電気工事株式会社勤務

人と人との繋がりが

Q. 学生時代の課外活動は？



2年生の途中からバレーボールサークル活動に夢中になっていま

した。ここで人との繋がりが多くなりました。個人ではなく、チームとしてまさしく輪(サークル)となり一つの目標へ向かう、大事な経験をしました。その他に先輩や後輩、出身地の違う色々な人との接点があり、今の自分の大きな財産になっています。

Q. 今のお仕事は？

「物」を作る仕事をしています。物といてもビルの電気設備を担当する会社です。ビルを建てると言っても、建てるだけで長いもので3年、計画・設計・調整を含めると5年近くなるものも少なくありません。私は営業として、顔を覚えてもらい、人と話をし、信頼して頂き始めて物事がスタートします。その長い月日を無事にまとめ

調整することが求められています。このような月日を共にする事で一つの物を作り上げる『人と人との繋がりが』をととても強く感じています。まだまだ半人前ですが、営業として、会社の代表として自信を持って営業できるように日々頑張っています。

Q. 就活を頑張る後輩に一言！

やりたい仕事を目標に頑張るのも大切です。ですが、知らない職種や経験した事の無い仕事に目を向けて、視野を広げて見ると目標に近づけるかもしれません。多くの人と話をし、接する事で自分のスキルを上げてみるのも一つです。目先の事だけでなく、10年後、20年後の自分の将来がどの様になっていきたいか、ビジョンを持つとすべきステップが見えてきますよ。

Q. 上司から一言！

私は、直属ではありませんが、近くでみると、積極的に周りの人とコミュニケーションを取るよう努力しているように見えます。年齢の上下に拘わらず気軽に付き合えるその人柄は、人気を集めています。その気軽さが、礼を失することが無いよう、営業マンとしてステップアップすることを期待しています。

(丸の内支社総務部長山口茂男様)

大学子ども学部

子ども学科（平成21年3月卒業）

柿沼 由佳さん

新宿区立保育園勤務

自分の保育の引き出しを沢山もつ

Q. 保育を学ばれた動機は



私は4人姉妹の長女で、7歳と11歳年下の妹たちにもルクを飲ませ、お守りをしたり、幼稚園の行事に参加したりと、小さなお母さんのようでした。子どもが大好きだったので、高3の時保育士を志望しました。

短大幼児教育科2年生の時、児童擁護施設に10日間泊まり実習をしました。私たちにふれあいを求めていますが、上手に表現できない乳幼児と力をつけないければ」と子どもについての勉強を深めるため学部へ編入を決心しました。

Q. 今のお仕事は

現在0歳児を3人お預かりしていますが、子どもが泣くといつてもいろいろな要素があります。個性も違うのでそのしぐさ、行動を判断して、0歳児の「ことばでは表現できない気持ち」を理解し援助しなければなりません。

ん。幸い4人でチームを組んでいるので、ベテランの先生に教えていただくことも多く、経験の重要性を感じています。また、母親になったのが始めて、仕事との兼ね合いに悩まれている方もあり、保護者への対応がなかなか大変です。

入所前の慣らし保育の折、保護者から「人見知りしない子に育てて欲しい」というご要望をいただきました。人見知りにもプラスとマイナスの意味がありますので、それを判断できる力を生活のなかで身につけることができるよう工夫していきたいと思っています。子どもに押し付けるのではなく、ともに学んでいくことは、とても難しい課題です。

Q. 後輩へのメッセージ

保育の専門家を目指すには、在学中から「自分の保育の引き出し」をつくるような心がけるとよいと思います。子どもたちの興味と関心をひくことができるようなものづくりの方法や、リトミック、パネルシアターとペープサートなど「自分の引き出し」を数多くもつことは大きな財産です。短大では基礎をしっかり学び、学部では教育学や多文化論の視点から子どもについての理解が広がったと思います。

社会交流

第二幼稚園近隣小学校との連携

幼稚園教育は、学校教育のはじまりとして、生きる力の基礎を育成する大切な役割を担っています。すなわち、幼稚園には、小学校以降の教育の基礎を培う任務があります。そのため、幼稚園と小学校における相互の連携が、最近とみに叫ばれるようになってきました。

このような中で、本幼稚園もここ数年、近隣の小学校との連携を深めています。具体的には、毎年学年末に、本園の教員が近隣の小学校教員に出向き、1年生の授業を参観するとともに、子ども理解のための情報交換を行っています。

一方、これとは別に子ども同士の交流も行っています。昨年度は3回実施



しました。1回目は、6月に小学2年生が生活科の学習として、本幼稚園の全学級をた

ずねてきました。園児は、年齢が近いこともあり、小学生とすぐに仲よくなり、「○○ちゃんのお兄ちゃんだ」などとはしゃぎ回っていました。

2回目は、10月に6年生が総合的な学習として年長組をたずねてきました。この時は、両者の年齢差が大きいこともあり、園児は6年生を単なる遊びの友達としてではなく、尊敬や羨望の対象として見ていました。

3回目は、年長組が2月に小学校を訪問しました。この時期、多くの年長児は間近にせまった小学校への入学に不安を持つ傾向があります。そこで、その解消をねらいとすることもあり、年齢の近い小学1年生と交流を持つことにしました。子どもたちは、初めのうちは小学校の教室の広さ、児童機の大きさなどに圧倒され、かなり緊張していました。しかし、ゲームやお遊戯などをするうちに徐々にうちとけた気分になりました。このような活動により、ほんの少しではあるが子どもたちの不安を取り除くことができました。

以上、本園における幼小連携の取り組みについて述べてきました。今後は、幼小の教育課程の接続などについても研究を深め、双方のより滑らかな接続を図っていくつもりです。

国際交流

慶熙大学校との交流について

韓国の慶熙（キョンヒ）大学校子ども家庭学科の一行（学生19名、院生4名、教員など4名）が、平成22年5月6日から5泊6日の日程で来日し、子ども学部との交流を深めました。7日に一行は十条台キャンパスで、幼児教育を中心とした講義を受講しました。その後、10日に品川区の保育園や小学校を見学した後、11日に短期大学附属幼稚園を視察し、木内秀樹園長から幼稚園事情の講義を聞くと同時に、幼児からの歓迎を受けました。帰国後、慶熙大学校から本学の歓迎に心から感謝するというメールが寄せられました。

慶熙大学校との交流は偶然なきっかけで昨年度から始まりました。子ども学部では例年11月に1年生を対象とした韓国研修を行います。が、昨年は新型インフルの影響で、予定した大学から学生の受け入れを辞退したいとの申し出がありました。研修の中止も考えたのですが、たまたま、慶熙大学校子ども家庭学科から受け入れたいとの申し出がありました。

慶熙大学校は韓国ではトップラ

ンクの総合大学として知られ、ソウルにキャンパスがあります。熱心なお誘いを受け、昨年、11月末に50名の学生が訪韓し、慶熙大学校での研修を実施しました。その後、子ども学部としての共通点が多いので、学生の交流や研究面での交換を行いたいという話が進み、今年の4月に姉妹校としての文書の交換を行いました。今回の来日はそうした経過の中での動きです。今年の11月末に子ども学部の学生も慶熙大学校での研修を予定しておりますが、今後、両大学間で安定した交流が進むことが期待されます。



木内園長に熱心な質問が。

大学・大学院、短期大学入学式

初の合同入学式を挙行



飛鳥山の桜が見頃を迎えた4月3日。北区王子の『北とびあさくらホール』にて学園の高等教育部門（大学・大学院、短期大学）合同の入学式が初めて挙行されました。

これまで、千葉県八千代市と東京都北区に点在する両キャンパスの距離から合同行事の開催を見送ってきましたが、大学として団結、高等教育部門の一体化の強化を目指す一環として、入学式の合同開催が実現しました。

当日は大学院19名、大学人文学部



72名、応用心理学部189名、子ども学部104名、経営学部82名、短期大学250名、総勢716名の入学生を向かえ、開式前のハーブ演奏が会場を厳かに演出し、北区長花川與惣太様をはじめとする多数の来賓の祝辞をいただき、大学院、大学、短期大学のそれぞれを代表した入学生が決意新たなる新入生代表挨拶をおこないました。

なお、当日は会場の都合上、付添いの方の入場を制限させていただきました。ご不便をおかけして申し訳ありません。ここにお詫び申し上げます。

大学院

修士課程2年生の学外実習が4月より始まりました。

学外実習とは、「学外」という名前の通り、大学院から離れ、病院、医院、学校、福祉施設といった各領域の機関の協力、指導のもと、臨床心理の現場での経験を積むもので、週に1〜2日の実習を1年を通して実施する、たいへん厳しいものです。その内容は、心理検査を実施したり、学校の児童・生徒の相談に乗ったり、それぞれの現場に合わせ、多岐に渡っています。また、学外実習は、「臨床心理学実習」という必修科目の一環で、修士課程2年生になると、必ず参加しなければなりません。

臨床心理士になるためには、本を読んだり、講義を聞いたり、自分でいろいろ調べたり考えたりすることももちろん大切ですが、やはり、援助の現場に出て、実際に援助活動を行っている方々、さらには援助を求める方々に会い、生の体験を積むことは、不可欠なことと言えます。

また、実習ではありませんが、援助を求めている患者さん、児童・生徒さんらと会うということは、その責任は重く、プロフェッショナルとしての高い意識と役割が求められます。



実習先の中学校の相談室

す。そのため、ひとたび実習の場に出ると、もう学生ではなく、社会人として、そして一人の臨床家として、責任を負うこととなります。

実習に参加している大学院生のみなさんは、「援助の現場に参加する」という、意気込みや期待とともに、その役割から生まれる重い責任、教科書的な知識だけでは対応が難しい援助現場の難しさを体感しています。そしてこうした経験を通過し、一層の成長を見せてくれるものと期待しています。

最後になりますが、現場の激務の中、この実習にご協力、ご指導いただいたいる実習先各機関の皆様には、深い感謝の言葉を述べさせていただきます。

八千代キャンパス 人文学部／応用心理学部

「体験学習」で学ぶ意欲もアップ!

人文学部・応用心理学部では、学びのための工夫として「体験学習」を積極的に取り入れています。教室内の講義だけでなく、実際に文化や福祉活動やカウンセリングなどを体験することで、学ぶ動機や目的意識が明確になり、学習意欲の向上、理解度の深化といった効果が期待できるからです。また、こうした活動を通して、学生同士、学生と教員間のコミュニケーションの密度も高まることで、「ふれあいのある教育」が出来るようになるからです。

毎年、学内外で様々な体験学習を行っています。平成22年の前半にも、多数の企画が立案・実施されました。以下はその一例です。

・日本伝統文化学科

京都研修旅行で仁和寺、京都御所、大谷大学霊宝館、京都文化博物館見学(2月5～7日)。

江戸東京博物館、回向院、芥川龍之介の旧跡を見学(1年生、4月9日)。

国立歴史民俗博物館、佐倉市内の武家屋敷、旧佐倉順天堂を見学(2年生、4月9日)。

台東区立下町風俗資料館、東京国立博物館を見学(3年生、4月9日)。

・国際言語文化学科

国立歴史民俗博物館を見学、上級生も参加で親睦が深まりました(4月9日)。

多文化・多言語・多民族が共生するシンガポール・マレーシアへの研修旅行(5月24～28日)。

・観光文化学科(4月8～9日)

世界遺産「日光の社寺」を見学。東照宮や大猷院の江戸期の文化遺産を堪能し、戦場ヶ原や華厳の滝などの日光の自然を見学。



応用心理学部新入生オリエンテーション

・応用心理学部(4月9～10日)

手賀の丘少年自然の家で新入生学外オリエンテーション実施。上級生も参加して学生同士、学生と教職員間の交流の輪が広がりました。

「地域との交流活動」が盛んです!

八千代市を中心とする近隣各市の市民のみなさんとの地域交流活動も盛んです。

地域交流活動には、教職員はもちろん、学生も積極的に参加しています。学生たちにとっては、これも一つの「体験学習」になっています。

今回も、様々な交流活動が行われました。以下はその一例です。

・春期公開講座の開催

(5月1～8月7日、人文・応用心理学部)

従来の無料の公開講座に加えて、昨年度からは春と秋に、各講師が3～10回を連続して担当する有料公開講座がスタートしました。今年度の春期講座は以下のメニューとなりました。「万葉集を読む」、「雅楽を楽演奏しよう〜越天楽〜」、「韓国語入門」、「韓国語初級」、「楽しく学びながら、実践する中国語〜中国事情と共に〜」、「森を楽しもう〜ネイチャーゲームリーダーの資格取得講座〜」

・大和田中学校の生徒による「キャンパス体験活動」(5月20日、人文・応用心理学部)

八千代市の中学1年生が本学を訪問し、大学とはどんなところかを半日体験する企画。「教授への質問コーナー」もあり、率直な質問に対応した教員もたじたじでした。

・伝統文化体験フェスティバル2

(5月28～30日、日本伝統文化学科)

勝田台文化センターで、十二単や東帯、甲冑や韓国装束などを実際に身につけることができる体験フェスティバルを開催。着付けなどは学生中心で行います。

・おにいさん・おねえさん子ども電話相談(応用心理学部)

本学学生が八千代市の小中学生の悩みや相談に電話で応えます。学生たちは、あらかじめ研修を受け、カウンセリング等のスキルを身につけます。

・八千代市「新川わくわくプレパーク」ボランティア

(5月8～12月28日、応用心理学部) 子どもたちと泥んこ遊びや竹馬、ハンモック・基地づくりなど、子どもの発想を優先して共に遊びながら過ごすボランティア活動です。

小中七学部

「小中七学部」では(リ)レー掲載⑧
「小学校英語教育が始まる」

子ども学部教授 吉江正雄

いよいよ来年度から小学校で英語教育が始まる。まじかに迫った現場の様子を小学校の先生方にお聞きした。ご協力頂いたのはさいたま市と新座市の小学校であった。さいたま市からは16校、新座市からは21校の先生方より回答を頂いた。さいたま市の場合、市の教育委員会が作成した『英会話カリキュラム』という立派なカリキュラムに沿って5年生と6年生を対象に週に1回授業が実施されている。文部科学省は授業で使用する共通教材「英語ノート」を作成し、全小学校に配布しているが、さいたま市の場合、この「英語ノート」はむしろ補助的利用である。担当するのは主に担任で、A L T (外国語指導助手) が同行し、補助教員の役割をしている。A L T の他にJ A T (日本人英会話講師)、つまり地域の、英語堪能な日本人が市か

ら採用されて担任の手伝いをする場合もある。

担当する先生方の悩みを尋ねたところ、一番多かったのが、「A L T やJ A T との打ち合わせ時間が取れない」と言うもので、それに「教材作りに時間が掛る」「担任の英語運用能力が低い」が続いた。英語教育資格を有する小学校の先生方は全国で3%に過ぎないそうだ。A L T が毎時間同行出来る訳ではなく、担任の先生方は現場で相当苦勞されている様だ。

一方、新座市の場合は「英語ノート」以外に決まったテキストは無く、英会話は週に1回が一番多いものの、2週間に1回、一学期に1回とまちまちである。「小学生に英語教育は必要か」と言う質問に「必要」と回答した学校が15校に対し「必要とは思わない」との回答が6校あった。悩みとして一番多かったのは「自分の英語に自信が無い」であった。指導者の人材育成とスキルのばらつきをどう統一するか懸念は多い。

経営学部

新入学生学外研修でスパリゾート
ハワイアンズを訪ね

新入生対象学外研修を4月21日(22日の1泊2日)で福島県いわき市のスパリゾートハワイアンズで行いました。平成18年に公開され、数多くの賞を受賞して話題となった映画「フラガール」の舞台となった施設で昨年に引き続きの訪問です。企業が苦勞して第二次産業の石炭鉱業から第三次産業のホテル・観光業へと転換していった足跡を实地に学ぶことがテーマのひとつです。

石炭を掘る上では邪魔者であった豊富な熱水を、逆転の発想で資源として利用し、東北の地に常夏の楽園ハワイを現出させたことや、フラダンスという当時の日本では全く新しい分野に挑戦した健気な娘たちの活躍など、学生たちはリゾート施設を楽しみながら、企業経営における産業転換の実際をその目で確かめることができました。米国カリフォルニア大学のホシ教授もこの映画を産業再生の教材に使用して学生の感動を呼んでいるのですが、私たちがケーススタディとして先に見出し実践したのは痛快です。



到着後は休む間もなく研修会場に直行、映画「フラガール」を現場で見、涙ぐみ、夜は大広間で一堂に会し、学部長訓話に続き、心のもった美味しい夕食をいただき、あとはホテルのアロハシャツとムーニーに着替え、本格的なフラダンスショーを見学、学生の飛び入り舞台参加もありました。迫力あるステージに学生たちは、ヤバイ、ヤバイ、を連発、祖父母くらいの団体客も一緒に盛り上がっていました。翌朝はテーマを設けてクラス別に討議、レポート、アンケート作成に取組みました。昼食の7種類のバイキングを満喫して帰路に着きました。また研修のもう一つの目的である、新入生ならびに教員間のフレンドシップを促進することは十分達成できました。

スパリゾートハワイアンズは創生中である経営学部の恒例行事のひとつになります。

短期大学 幼児教育科 / 言語文化コミュニケーション科

幼児教育科

同窓生との連携を大切に

東京成徳短期大学幼児教育科は44年間にわたり、保育現場を中心とする様々なフィールドに多くの同窓生を送り出してきました。卒業生数は平成22年3月で累計10,932名にのびります。

同窓生の皆様の努力と保育にかける強い熱意が各地で認められ、本学幼児教育科への高い評価となり、最近の卒業生の就職実績や在学生の実習や就職につながっています。

学園のシンボルマークにもある「イエローの3本柱」[学生・同窓生・教職員]がお互いを高めあうことにより、本学幼児教育科が社会に資する教育の場であり続けることができるということ、我々は色々な場面で実感しています。



さて、今回は、幼児教育科の同窓生の協力を得て行っている2つの活動をご紹介します。

まず、本年度の幼児教育科入試パンフレットの表紙をご覧下さい。この表紙絵を描いて下さったのは、イラストレーターの吉間ゆかりさんです。幼児教育科の第38回生で、

様々な媒体でご活躍され、独特の画風で、児童向けの絵本を出されています。パンフレットの中にも、保育現場で活躍している同窓生8名が写真つきでコメントを寄せて下さっています。

もう一つの活動は、幼児教育科の2年生に向けた「幼児教育科就職オリエンテーション」です。本年5月22日には、第41回生と第42回生の4人を招き、就職活動の体験談や保育現場に出てみて実感した学生時代の重要性、在学生が今から心がけておくべきことなど、具体的なアドバイスをうかがいました。卒業生を迎えて行う就職オリエンテーションは毎年非常に好評で、学生達はメモをとりながら熱心に聴き、「オーラを感じました」「憧れます」といった感想を聞かせてくれました。

言語文化コミュニケーション科

2009年度オーストラリア

6ヶ月留学報告



言語文化コミュニケーション科のオーストラリア留学は、シドニーオリンピックの年、2000年にブリスベンのクイーンズランド大学で3ヶ月留学として始まりました。

10回目の実施となった今回は、6ヶ月留学に3名が参加しました。学生はそれぞれ、オーストラリアン・カソリック大学、マッコリー大学、ニューサウスウェルズ大学で19週間の英語研修、その後、2週間の職場体験に臨みました。昨年10月から今年の3月までの6ヶ月でしたが、あつという間に過ぎたようです。学生もそれぞれ思い出深い留学生活を送ったことだと思います。この体験を今後に活かしていつてもらいたいと思っています。

伊豆 学外研修旅行報告

4月21日から22日にかけて言語文化コミュニケーション科1年生の学外研修旅行が行われました。1

日は、晴天のもと十条台キャンパスをバスで出発して、まず富士宮市の朝霧高原にある「まかいの牧場」へ。バーベキューやできたてのソフトクリームを食べました。そして、その後、伊豆市にある「ラフォーレ修善寺」に。到着後、グループ面談を行い、スポーツセンターでバレーやバトミントンなどのスポーツをしました。夕食（フレンチ）後は、温泉スパに入ったりゲームをしたりと各自が施設を楽しみました。

2日目は、あいにくのお天気でしたが、天城越えをして東伊豆町稲取にある「伊豆バイオパーク」へ。施設を見学後、寿司会席をいただきたい、伊東市の伊豆高原にある最後の見学地「伊豆ディベア・ミュージアム」へ。午後5時過ぎに、無事十条台キャンパスに着きました。2日間と短い期間でしたが、学生同士、また教員と学生の親睦が深まった研修旅行でした。



間と短い期間でしたが、学生同士、また教員と学生の親睦が深まった研修旅行でした。

新しい戸隠校外学習の拠点



～戸隠高原ホテル～

長きにわたって多くの東京成徳生に親しまれ、惜しまれながらも昨年の9月をもって閉鎖された「戸隠グリーン」の代替施設に、地域で最も人員収容能力がある「戸隠高原ホテル」が決まりました。今夏からは校外学習の活動拠点として、この施設を利用することになります。

「戸隠高原ホテル」は、戸隠スキー場の目の前に位置し、玄関からゲレンデに数メートルで出られる抜群の立地条件にあります。総部屋数は33室。約180名が宿泊できる規模です。「戸隠グリーン」よりも高い場所にあり、周囲が樹木などに遮られ

ることのない開放的な空間であるため、天気によければ多くの部屋から戸隠連峰を一望できます。

メインとなる建物は3階建ての本館と2階建ての別館で、生徒が寝泊まりする部屋は主に別館内のものであるでしょう。また、本館2階にある約120名収容のレストランと、そのすぐ近くにある約50名収容の大広間(和室)を利用することで、170名が同時に食事を取ることできます。レストランからはゲレンデを、大広間からは戸隠連峰を見渡せます。ただ、本館1階にある浴室はあまり広くはないので、入浴時間の設定には少し工夫が必要かもしれません。



～戸隠高原ホテルのレストラン～



～戸隠連峰を望む～

「戸隠高原ホテル」で使用している飲料水は、ホテルの地下150メートル付近の所から汲み上げたものだから、ホテルの代表者のお話によると、「水のおいしさには自信があるので是非味わって頂きたい」とのことでした。

宿泊拠点が「戸隠グリーン」からそれほど離れるわけではありませんが、自分自身を深める「学習」を盛り込んだ校外学習プログラムを大きく変更する必要はなくなりませんが、それでも一般のホテルを使用させて頂くわけですから、生徒たちにはこれまで以上に利用マナーが求められます。また、中学二年生の

飯縄山登山が校外学習4日目に行われることになったように、いくつかの行程変更も余儀なくされるのは否めません。

しかし、戸隠の森が生み出すフィトンチッドの風を感じながら、野鳥たちの歌声に耳を澄ませ、貴重な花々の饗宴を楽しめる戸隠の豊かさを満喫できることはこれまでと変わりがありません。私たちの戸隠での生活が、より充実したものになるようサポートしてくださる「戸隠高原ホテル」は、東京成徳生の新しい思い出の場所にきつとなることでしょう。



高等部

文武両道の象徴「応援委員会」
活動が本格スタート

高等部は平成16年に応援委員会を設置し、以来今年で7年目を迎えました。主な活動は、各種壮行会での応援パフォーマンズ、夏の甲子園大会の予選応援、サッカーの都大会応援、バスケットボールウィンターカップ応援、吹奏楽部定期演奏会の友情出演などです。組織は2、3年生の男子有志応援リーダーと1年生のクラス選出男子応援リーダー、及び有志の女子チアリーダーで構成されています。設立当初は、応援委員の意識も低く、いつ解散になってもおかしくない状況でした。しかし、本校の文武両道の方針が徐々に浸透してゆくにしたがって、その活動は活気を帯びてきました。

応援委員会の設立理由は「仲間をみんなで応援しよう」「東京成徳のつながり、連帯を強めよう」でした。本校の部活動は、運動部ばかりか文化部も、生徒一人一人の生活の一部になっていきます。その生活の中でこそ、勉強で学んだ知識が「智慧」となります。それが文武両道の意味だと考えています。挫けそうになる

時、互いに支えあうことで乗り切ることが出来る！どんなに苦しいときも、自分ひとりじゃないんだと思えば頑張れる！そんな「つながりの精神」を支えるのが応援委員会の使命といえましょう。応援パフォーマンスの内容は、伝統ある東京大学応援部の方々の指導に基づき、東大パフォーマンスを継承したものです。いずれ、東京大学応援部の持つ応援精神を継承しつつ、さらに本校のオリジナル・伝統が確立されることとしましょう。今回は、初回応援練習の風景、さらに本校応援団長・長谷川君と東大応援部副将・大貫さんの談話を紹介します。



Q 今年初めての東大応援部指導による応援練習はどうでしたか？

長谷川 1年生は初めての東大応援部指導体験で、びっくりしたよう

です。なかなか応援委員に立候補する者がいない中で、くじ引きで委員を決めるようなクラスもあります。しかし、実際に委員をやってみると、達成感、充実感があります。それを1年生に伝えていきたいと思っています。

Q 本校の応援委員会にはどのような印象をお持ちですか？また、東大応援部として一番伝えたいと思っていることはどのようなことですか？

大貫 以前と比べると、上級生が少しやさしいようです。もっと積極的に下級生に声をかけてほしいですね。私たちは、東大応援部の「熱意」を東京成徳生に伝えたいと思っています。練習では、目の前に応援すべき選手を常に想定してほしいですね。応援は他者のためにするように考えられがちですが、応援の中で仲間が一体になると、逆に選手から自分たちが応援されているような気持ちになります。だから、人のために行う行為が、結局は自分に跳ね返り、自分のためになるんです。そこが理解できるまでに時間はかか

りますが、ぜひそれを体感してほしいですね。



Q 今の大貫さんの発言について、長谷川君、コメントをお願いします。

長谷川 大貫さんの話を聞いてなるほどなど、勉強になりました。自分たちも徐々にそのことが解りかけていきます。頭で理解するのと、応援活動という実践の中で感じることは全くインパクトが違います。これからも、応援活動の中で「本当の仲間づくり」をして、それを東京成徳の伝統に出来るよう頑張ります！

二人の会話は、応援することの意味を、頭で理解するのではなく、実感として心に訴えかけてくる感情が大切だという結論に至ったようです。頑張れ応援委員会！

深谷高校

木島平(長野県) 校外学習を終えて

第1班 4月26日～28日

1年A組～F組

第2班 4月28日～30日

1年G組～J組



1年J組 吉川 優治さん
木島平で2泊3日の校外学習がありました。それはまだまだ慣れない事や不安の中での出発でした。しかしそれも、みんなとの時間が流れることに和らいでいきました。

カレー作りやそば打ち体験では、学校の中では見られなかった、よい協力ができた、自然の中のハイキングでは、いつも以上にリーダーシップを発揮し、頼もしく見える友もいました。

90分授業は大変だったけれど、みんなとの競い合い、励まし合いの中、やり遂げることができ、それが自信へとつながることができました。

自分は、この自然の中での体験で、みんなの事を知ることができ、その距離を縮めることができ、自分を顧みることもできました。これからの3年間、様々な行事や大学受験に向けて、このメンバーとなら共に立ち向かっていけると感じました。

第44回体育祭

太陽よりも熱くなれ

かがやく君は無敵大

6月8日、本校グラウンドで第44回体育祭が開かれました。体育祭で伸び伸びと活躍する生徒たちの姿を見るのは親として嬉しい限りです。何よりも「安心して子どもを任せられる学校」を実感する機会でもあり、とても楽しい体育祭でした！



幼稚園

韓国慶熙大学校の来園

5月11日韓国の慶熙大学校の学生及び教職員の皆さんが視察にお見えになりました。

入園・進級の間もない時期でしたが、年長の園児たちは外国のお客様を歓迎しようと、韓国はどんな国か、世界地図を広げ、どんな食べ物があるのか、どんな服装があるのか、どんな文字があるのかとみんな考えて調べていきました。保護者の協力もあり、ハングル文字で横断幕を作ったり、また、韓国旗を作り楽しみにしていました。この日は朝からお客様をお迎えすると言う事で子ども達は、わくわく、どきどきして



いましました。「ア ニヨハ セヨ、 オソオ セヨ」 と覚え たての 言葉を 伝え、 手話の 歌や遊

戯、合奏で大歓迎、するとお返しに学生さんたちも踊りや歌を披露してください大変盛り上がり、和やかにすごすことが出来ました。

韓国は非常に教育熱心であると言う事は良く知られています。木内園長(副理事長、中学・高等学校長)が本園の教育の狙い・特色を説明、保護者の方々に本園の教育方針をご理解していただくには平素のコミュニケーションが大切と力説、さらに日本の教育制度・課題などに言及されると熱心に書き留め、聞き入りどの方も目が生き生きとされ、質疑応答も活発に行われました。

本園にも現在10カ国の保護者があり国際化も身近なものになってきました。未来をしょって立つ子ども達が少しでも世界に目がむけられる素晴らしいチャンス頂くことが出来たのではありませんかと思いましました。



第二幼稚園

作品展、テーマは「サファリパーク」

去る2月6日、待ちに待った作品展が開催されました。今年のテーマは「サファリパーク」です。

年長組は、今年の干支にちなみ、虎の姿をしたサファリバスをみんな協力して作りました。牛乳パックやペットボトルなど、身近にある廃材を用いて巨大なバスに仕上げました。バスの窓や椅子、運転席や助手席、バックミラー、ハンドルなど本物のサファリバスに近づけるために、子どもたちが互いに話し合いながら細部までこだわりました。年少組は水風船のまわりに折り紙を貼り、絵の具で色付けをして、いろいろ動物の卵を表現しました。年中組は、紙粘土で作ったキリンやゾウ、ライオンなど自分の好きな動物を飾りつけ、会場の雰囲気盛り上げました。



身近にあるものを使用し、みんなで力を合わせた作品展、出来上がるにつれて子どもたちは瞳を輝かせていました。この作品展を通して表現する楽しさや一つのことを成し遂げる喜び、達成感を味わうことができました。

春の遠足

5月14日、年長組の子どもたちが春の遠足として東武動物公園へ行ってきました。当日は天候にも恵まれ、絶好の遠足日和となりました。

行きのバスで、子どもたちは「動物園へいこう」などの歌を大声で歌い続けて大興奮でした。動物園では、お目当てのホワイトタイガーや自分たちのクラスの名前にもなっている「ゾウ」や「キリン」などの動物を目に焼き付けてきました。また、ウサギやヒヨコ、モルモットなどの小動物とのふれあいでは、年少児とかかわる時と同じくらい優しく声を掛けながら撫でていた姿がほほえましかったです。



ヒヨコを抱いて笑顔の園児たち

進路 進学・就職

東京成徳大学高校

受験生の傾向・特徴

平成21年度卒業の生徒数484名は昨年とほぼ同数であったが、大学進学者数366名、合格件数967件は、ともに過去最高の数字でした。大学進学率は全校平均で76%、特に一貫部のみでは90%に達しました。

大学合格数では前年比150%と大幅な増加となったのだが、これは一般入試受験者が在籍の50% (240名) を占めるようになったことと、それらの生徒が併願校を増やしたことが大きな要因です。これらは、AO入試や推薦入試で入り易い大学を採すのではなく、最後まで第一志望を目指すという本校の指導が徹底したことで、確実に合格を勝ち取るための受験校指導に、保護者の方々が理解を示してくださったこと、などの結果であると考えられます。

一方、大学進学率の増加に伴い、短大・専門学校への進学者数が激減しました (前年比約51%減)。短大への進学者数は26名、合格件数は36件、専門学校への進学者数は34名、合格件数は38件でした。当初の予想では、一昨年来の不況もあり、実

学傾向の強いこの分野は増えるのではと考えられていたが、結果として四大志向を止めるほどのものはなかったです。

平成21年度合格実績 卒業生 484名

東京成徳大学	23名
国公立大学 (準大学含む)	33名
東京工業大学、東京医科歯科大学、東京海洋大学、東京学芸大学、千葉大学、埼玉大学、群馬大学、茨城大学、富山大学、都留文科大、山梨県立大学、奈良県立大学、熊本県立大学、防衛大学校	
難関私立大学	160名
早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学、東京理科大学、国際基督教大学、青山学院大学、法政大学、中央大学、明治大学、立教大学	
その他私立大学	751名
東京成徳短期大学	10名
その他短期大学	28名
専門学校	40名

国公立大学

東京工業大学・東京海洋大学・東京学芸大学・千葉大学・埼玉大学などに33件の合格があり、前年比183%増であり、この大幅増加の要因の一つとして、後期試験まで粘った生徒が多くいたことを指摘しておきたい。また、東京医科歯科大学に初めての合格者が出たことも、嬉しい結果です。

私立大学

受験者が多い大学は、例年通り東洋大学、法政大学、日本大学の順です。早慶上理をはじめ、ゾーン別合格者数は全ての層で昨年を上回り、特にMARCHは270%増の108名の合格でした。

東京成徳大学深谷高校

平成21年度の卒業生は、314名で、内87・3%にあたる274名(四大174短大31、専門学校69)が進学しました。深谷校は、特進選抜・特進・進学選抜・進学・保育・総合の6コースを設け、個に応じた進路実現を目指す指導を展開しています。

特進選抜・特進コースでは難関国公立大学や地元の埼玉大学・群馬大学を目標にしています。進学選抜・進学コースは、一般入試や推薦で日東駒専レベルを目指しています。また、保育・総合コースでは、東京成徳大学・短期大学をはじめとして、人文系や保育系の大学・短大・専門学校へ進学しています。

国公立大学

平成20年度から若干、総数は減少しましたが、筑波大学、埼玉大学への合格者を出しました。特徴として

は、群馬大学や埼玉県立大学など、近隣の地方国立大学に進学先を伸ばしている点です。

私立大学

難関私立大学(早慶上理)は昨年の2名から5名に躍進しました。また、GMARCH(学習院・明治・青山・立教・中央・法政)は、12名から19名に数を伸ばしました。さらに、SMG(成蹊・成城・明治学院)は、5名から11名への倍増となりました。

他の有名私大を含めた合格総計は、昨年の231名から341名となり、質量とも発展の歩みを続けています。今後は理数系希望者の進路実現を図るとともに一層の質的向上をめざす進路指導の充実に努めて参りたいと考えています。

平成21年度合格実績 卒業生 314名

東京成徳大学	6名
国公立大学	9名
筑波大学、埼玉大学、群馬大学、山形大学、新潟大学、埼玉県立大学、群馬県立女子大学、群馬県立県民健康科学大学、前橋工科大学	
難関私立大学	24名
早稲田大学、上智大学、法政大学、中央大学、明治大学、立教大学、学習院大学、青山学院大学	
その他私立大学	306名
東京成徳短期大学	4名
その他短期大学	34名
専門学校	72名

大学・短期大学

人文学部の進路支援状況

本年度も厳しい経済環境の中の就職活動となっておりますが、学生諸君は全員がゴールを目指して頑張っています。

本年度の求人動向としては、景気の見通しが不透明なため採用数を抑制しようとする動きと、ここ数年の採用数削減による人員構成のゆがみを是正するために採用を維持・増加する両面の動きがあり、結果として八千代キャンパスの求人数は、

現状では会社数・人数ともに昨年比3割程度の減少となっております。しかし福祉系・サービス系など求人好調な業種もあり、悲観せずに志望業界・企業を広げて活動することが重要と考えています。

学生支援課キャリア支援担当では新規求人案件の開拓に注力しており、その一環として6月に学内合同企業説明会を開催し、採用意欲の強い中堅企業を積極的に学生に紹介しました。求人動向を見極めながら今後も年内に数回程度実施する予定です。

学生の就職活動の開始時期は年々早期化しており、結果的に競争率が高まって内定獲得が難しくな

り長期間の就職活動を強いられる、という悪循環が起きています。途中で挫折しないためにも、「絶対に就職する」という強い意志が、ますます重要になってきています。私たち

キャリア支援では、全体的な就職活動の流れに乗り遅れないように学生を支援しながら、モチベーションが低下しないように適切なアドバイスに注力しています。スタッフ全員がキャリアカウンセリングの有資格者である強みを更に発揮していきたいです。

厳しい環境は今後も続くものと予想されますので、保護者様を始めとする関係各位の強力なご支援を、宜しくお願い申し上げます。

子ども学部の進路支援状況

子ども学部の卒業生も第3回となりしました。今回の卒業生に対しては、3年生前期では全体を対象に就職活動に必要な基本を就職支援講座で行い、後期からは希望進路別コースに分かれて、より実践的な進路支援を行いました。

今回の卒業生の就職内定率は95%でした。その内、教職関係が99%、一般企業が85%となりました。教職関係では、幼稚園、保育所、認定こども園などに就職しております。また一般企業では、鹿島建設(株)、株光通信、城北信用金庫、東京消防庁など多岐にわたっています。

また、大学院へ2名進学しています。

短期大学の進路支援状況

短期大学では一般就職、教職関係ともに、1年生後期から就職ガイダンスを行うと共に、学生一人一人に対してきめ細かく進路支援を行っています。また、夏休み中にはビジネス能力検定、国内旅行業務取扱管理者、公務員試験対策講座などの夏期講座を実施しています。

平成21年度の就職内定率は、一昨年秋からの急激な景気悪化を反映



講師を招いての就職セミナー

し、言語文化コミュニケーション科64%、ビジネス心理科48%と大変厳しい結果となりました。就職先はホテル、IT関連等のサービス業を中心として金融、流通、食品製造と広範囲にわたっています。一方、幼児教育科では幼稚園及び保育所などの教職関係は100%でしたが、一般企業は67%となり、同科全体では昨年と同じ99%となりました。また卒業生の進学は11名が四年制大学に編入、11名が専門学校等に進んでいます。



学内合同企業説明会

クラブ活動

高校

第1回・全国中学校高等学校女子
ラクロス選手権大会優勝



創部から全国制覇まで

本校女子ラクロス部は創部16年目を迎え、高校ラクロスの頂点を常に目標とするまでに成長しました。関東大会の春秋年2大会において、初優勝は創部3年目に、その後は12年間で負けたのは3回だけ、秋の大会に関しては初優勝以来、全大会に優勝し、大会中一度も負けなしという無敗記録まで更新中です。

この実績により日本の高校最強

チームと言われながらも、全国大会が開催されていないことからその真の実力が証明されないままです。それが昨年度、高校女子ラクロスでは初めての全国大会、第1回高校女子ラクロス全国大会が開催されることになり、ようやく日本一を目指すことができるようになりました。

全国大会に出場するには、関東大会上位2チームのみだが、激戦を制して関東大会に優勝し、いよいよ東日本代表として西日本代表との日本一をかけての戦いに挑むことになり、ファイナル4で西日本代表の同志社高校に圧勝し、3月30日の決勝では神奈川の桐蔭高校と対戦。この試合に見事勝利し、初の日本一という称号を手に入れました。

女子バスケットボール部

高校総体（インターハイ）東京都予選に優勝し、17年連続46回目の出場が決定。沖縄で開催される全国大会に臨みます。

弓道部

女子が個人部東京都予選で準優勝し、高校総体（インターハイ）に出場できることになりました。

女子バスケットボール部

関東大会	東京都予選	優勝	(関東大会出場)
関東大会		準優勝	
高校総体（インターハイ）	東京都予選	優勝	(全国大会出場)
陸上部			
関東大会	東京都予選	女子 400m リレー	6位 (関東大会出場)
水泳部			
関東大会	東京都予選	1500m 自由形	1位 (関東大会出場)
		400m 自由形	1位 (関東大会出場)
		50m 自由形	8位 (関東大会出場)
剣道部			
関東大会	東京都予選	女子	団体 ベスト8
弓道部			
関東大会	東京都予選	男子	団体 3位 (関東大会出場)
高校総体（インターハイ）	東京都予選	女子	個人 準優勝 (全国大会出場)

廣瀬章人六段

第51期王位戦挑戦権を獲得

卒業生でプロ棋士として活躍している廣瀬章人六段（平成17年生）が王位戦挑戦者決定戦において羽生名人に勝利し、深浦康一王位に挑戦することとなりました。7月から9月にかけて七番勝負が行われる予定です。

深谷高校パワーリフティング部 世界ジュニアパワーリフティング 選手権大会出場

8月30日（月）から9月4日（土）までチェコ共和国・ピルゼン市で行われる『2010年世界ジュニアパワーリフティング選手権』（国際パワーリフティング協会主催）の日本代表選手にパワーリフティング部の三年生野口裕太さんが選ばれ大会に派遣されることになりました。



Qなぜ、パワーリフティング部に入ろうと思ったのですか？

小学校低学年から中学3年生まで野球をやっていましたが、高校入学と同時に野球部ではなく他の運動部で自分の体格を活かせるスポーツを探していて、本校にパワーリフティング部があると知人に紹介してもらい入りました。

Q世界大会に出場する今の気持ちはどうですか？

世界大会ということで、いつも行われる大会よりも緊張感をもって

学園人事異動（採用・退職・昇任・異動）

教員				所 属	氏 名	配属・役職
深谷高校	中学・高校	短大	大学			
船中 阪 関 津上 根 香健 日 千 住太 色 津子	桐内 狩 松 智野 野 田 典佑 佑 高 太太 典 貴	鳥 木 塚 村 真 仁 寛 美	鎌 青 北 富 川 田 木 爪 丸 合 大 佐 克 和 初 輔 奈 洋 子 代 治 仁 美 輔 枝 洋 男	短大	川合 治男	人文学部・応用心理学部図書館長・共通領域部教授

職員				教員				所 属	氏 名	配属・役職
幼稚園	中学・高校	第二幼稚園	幼稚園	深谷高校	中学・高校	大学				
松 經 佐 岩 原 田 藤 崎 る り 佳 博 子 梨 誉 子	吉 中 奥 成 川 田 ト 真 泰 モ 由 章 子 美 章	吉 末 成 田 ト 佳 モ あ ゆ み	廣 坂 瀬 爪 梨 詩 華 子	吉 正 佐 野 上 田 藤 祐 右 友 隼 一 美 人	原 柴 日 近 田 宮 下 江 優 真 文 人 祐	塚 千 山 浅 新 江 井 神 田 保 口 野 井 間 上 谷 知 喜 正 憲 村 井 間 博 香 久 寛 一 節 邦 由 純 夫 夫 一 一 郎 二 起 文 夫 夫 一 一 郎 二 起 文	深谷高校	吉野 祐一	専任講師	共通領域部准教授

職員		教員						所 属	氏 名	配属・役職
短大事務局	大学十条台	幼稚園	深谷高校	中学・高校	大学					
異動	異動	昇任	昇任	昇任	昇任	昇任	昇任	昇任	那須野 三津子	子ども学部子ども学科学科准教授
和久 手 笹 岩 竹 溝 馬 北 堀 津 塚 沼 崎 越 田 場 中 野 美 美 雅 重 健 一 周 保 二 咲 美 美 矢 一 夫 一 保 二	異動	昇任	昇任	昇任	昇任	昇任	昇任	昇任	宮 野 森 民 恵	子ども学部子ども学科学科准教授
学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	山 口 カオル	子ども学部子ども学科学科准教授
学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	布 川 景 子	子ども学部子ども学科学科准教授
学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	菅 野 絵 美	子ども学部子ども学科学科准教授
学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	宮 上 洋 平	子ども学部子ども学科学科准教授
学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	井 上 洋 平	子ども学部子ども学科学科准教授
学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	宮 崎 優 巨	子ども学部子ども学科学科准教授
学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	葛 西 優 彬	子ども学部子ども学科学科准教授
学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	朝 倉 彬	子ども学部子ども学科学科准教授
学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	池 田 善 英	子ども学部子ども学科学科准教授
学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	松 坂 被 宜	子ども学部子ども学科学科准教授
学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	野 口 禎 一郎	子ども学部子ども学科学科准教授
学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	阿 南 友 亮	子ども学部子ども学科学科准教授
学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	高 野 泰 宣	子ども学部子ども学科学科准教授
学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	福 山 裕 宣	子ども学部子ども学科学科准教授
学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	大 井 惠 剛	子ども学部子ども学科学科准教授
学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	秋 山 秀 一	子ども学部子ども学科学科准教授
学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	市 村 操 一	子ども学部子ども学科学科准教授
学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	学修支援課	那須野 三津子	子ども学部子ども学科学科准教授

職員		教員			所 属	氏 名	配属・役職
幼稚園	中学・高校	第二幼稚園	幼稚園				
齋藤 千春	菅 三 田 地	伊 藤 廣	星 野 有 紀	清 水 優 希	宮 内 希 美	猪 俣 佳 子	主任
助手	マキ子	佐 藤 晴 美	星 野 有 紀	清 水 優 希	宮 内 希 美	猪 俣 佳 子	副主任

※引き続き兼務職員として勤務

オープンキャンパス・学校説明会のご案内

東京成徳大学 八千代キャンパス [人文学部・応用心理学部]
7/18 ㊦ 8/1 ㊦・22 ㊦ 9/19 ㊦ 10/23 ㊦・24 ㊦ 11/20 ㊦
東京成徳大学・短期大学 十条台キャンパス [子ども学部・経営学部]
7/18 ㊦ 8/1 ㊦・22 ㊦ 9/26 ㊦ 11/21 ㊦
東京成徳大学高等学校
10/11 ㊦ 11/3 ㊦・14 ㊦・28 ㊦ 12/4 ㊦・12 ㊦
東京成徳大学深谷高等学校
9/23 ㊦ 10/17 ㊦ 11/14 ㊦
東京成徳大学中学校
9/5 ㊦ 10/10 ㊦・26 ㊦ 11/14 ㊦ 12/12 ㊦ 1/7 ㊦・22 ㊦
東京成徳短期大学附属幼稚園
9/4 ㊦
東京成徳短期大学附属第二幼稚園
9/18 ㊦



オープンキャンパス・学校説明会は予約不要です。
詳細は各校のホームページをご覧ください。

学校法人 **東京成徳学園** <http://www.tokyoseitoku.ac.jp>

東京成徳大学大学院	http://www.tsu.ac.jp/gra	電話 03-3927-4116
東京成徳大学	http://www.tsu.ac.jp PC http://www.tsu-mobile.com 携帯	
人文学部 応用心理学部	八千代キャンパス入試・広報センター	電話 047-488-1000 (直通)
子ども学部 経営学部	十条台キャンパス入学課	電話 03-3908-4566 (直通)
東京成徳短期大学	http://www.tsc.ac.jp PC http://www.tsc-mobile.com 携帯	
	十条台キャンパス入学課	電話 03-3908-4566 (直通)
東京成徳大学中学・高等学校		
中高一貫部	http://www.tokyoseitoku.jp/js	電話 03-3911-2786
高等部	http://www.tokyoseitoku.jp/hs	電話 03-3911-5196
東京成徳大学深谷高等学校	http://www.tsfh.jp	電話 048-571-1303
東京成徳短期大学附属幼稚園	http://www.tokyoseitoku.ac.jp/t-kind	電話 03-3911-6337
東京成徳短期大学附属第二幼稚園	http://www.tokyoseitoku.ac.jp/y-kind	電話 048-854-2151
東京成徳スイミングスクール		電話 03-3914-2383

学校法人 東京成徳学園 〒114-8526 東京都北区豊島8-26-9 TEL 03-3911-2411 FAX 03-3911-6500
法人本部企画調査室 東京成徳広報 第28号 平成22年7月発行